

## 特定復興再生拠点区域外の避難指示解除の取組の進め方に関する住民説明会

- 1 日 時 令和4年5月20日（金）13：00～14：10
- 2 場 所 福島県農業総合センター 1階多目的ホール（郡山市）
- 3 出席者（町側） 伊澤町長、徳永副町長、平岩副町長、館下教育長、中野住民生活課長、橋本秘書広報課長、高橋健康福祉課長、中里戸籍税務課長、横山復興推進課長、相楽農業振興課長、藤本建設課長、佐藤建設課支援員  
出席者（国・県側） 辻本原子力災害現地対策本部副本部長、黒田原子力災害現地対策本部総括・広報班長、佐藤内閣府原子力被災者生活支援チーム企画官、高橋内閣府原子力被災者生活支援チーム参事官補佐、中井復興庁原子力災害復興班参事官、須賀福島地方環境事務所環境再生課課長、田中内閣府原子力被災者生活支援チーム参事官補佐、樫福資源エネルギー庁原子力損害対応室企画調整官、新妻福島県避難地域復興課課長、志鎌福島地方環境事務所廃棄物対策課対策官、栗栖福島地方環境事務所管理課課長、
- 4 町民出席者 20人
- 5 町長あいさつ（伊澤町長）

皆さんこんにちは。長期に渡る避難生活大変お疲れ様です。本日は特定復興再生拠点区域外の避難指示解除の取組の進め方に関する住民説明会を開催しましたところ、大変お忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。さて、午前の部では特定復興再生拠点区域の避難指示解除についてご説明させていただき、ご意見等をいただいたところですが、午後の部では特定復興再生拠点区域外の帰還困難区域に関しての取り決めの進め方についてご説明させていただきます。国では、令和3年8月に特定復興再生拠点区域外への帰還、居住に向けた避難指示解除に関する考え方を決定し、2020年代をかけて帰還意向がある町民の皆さんが帰還できるよう、帰還意向を丁寧に把握して特定復興再生拠点区域外の帰還困難区域の避難指示解除の取組を進めていくとしております。本日は国から町民の皆様へ、今後の特定復興再生拠点区域外の帰還困難区域の避難指示解除に向けた取組方についてご説明をさせていただきます。この住民説明会後に対象となる世帯の皆様には帰還ご意向をお伺いする意向確認を行わせていただくこととなりますが、今回の説明会ではその前に町民の皆さんからご質問やご意見を伺いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

## 6 国からのあいさつ（原子力災害現地対策本部 辻本副本部長）

現地対策本部、辻本でございます。午前を引き続きましてこのような機会をいただきまして誠にありがとうございます。まず冒頭改めてではございますけども、11年間まだ避難指示が継続し、避難生活を余儀なくされていること、双葉町民の皆様にも多大なるご負担をお掛けしていること改めてお詫び申し上げます。午前中は特定復興再生拠点の説明会でもございました。その場でも多くのご指摘、ご意見をいただきました。11年分の思い、発言であったと思っております。特定復興再生拠点外につきましては午後これからご説明させていただきますけども、まだこれから制度を作るようなところもございます。何よりも早く住民の皆様のご意見をいただきながらスムーズにスピード感をもって進めるように、ご意見を頂戴できればというふうに思っております。本日、我々内閣府、復興庁、環境省、福島県の担当者も参加させていただいております。皆様からのご意見をいただきながら、早く前に一歩でも二歩でも進めるような双葉町の復興につながるような時間にできればと思っております。よろしくお願いいたします。

## 7 説明（内閣府原子力被災者生活支援チーム 佐藤企画官）

○特定復興再生拠点区域外への帰還・居住に向けた今後の進め方について

## 8 質疑応答

### ■（町民：浜野行政区 男性）

今いろいろと除染の問題とかそういう説明ありました。でも実質的には震災から11年経ってます。この除染活動に入るとしても4～5年かかりますよね。そうすると大体20年近くになります。ただ、やはり統計的に全部除染するというのは無理なんですから、やはり統計的に5年刻みでこれくらい大体線量が下がってますとか、やっぱり、そういう拠点とかポイントポイントにですね、双葉町でしたらポイントポイントにそういうものをきちっと設けて、やはり5年刻みに大体このくらいの線量が震災当時より下がってますとか、やっぱり、そういう方向と、やはり今説明された通り家に帰る、戻るといったものには確実に除染しなければならないし。やはり除染しなくてもいいという怒られるかも分かんないですけども、逆にある程度年数が経てば、それだけ線量が下がるということ。なぜかというのですね、やはり除染を全部、例えば、その除染した部分のやつをですね、やはり置き場に運ぶわけですね。そうすると国の方では中間と言ってますけども、ただ私の考え、個人で、皆さんに怒られるかもしれないですけども、処分場もやはり100%したら置ききれなくなっと思うんです。それと、だから中間とか、最終的に町、はじめ職員の方々、今もたぶん線量でてます。ただただ、処分場も、もうすっかりこの浜野地区はあの二者選択で反対か賛成かではなくて、やはり我々の世代というのは一世代20年ですね、何を言いたいかと言いますと、いろんな議論もすべて全然関係なような感じの話になっちゃいます。だから処分場も中間とか最終とかじゃなくてやはり処分場としてきちっと双葉町の、隣接した原発

敷地内、やっぱ、そこを処分場として活用すべきだし、というのもですね、ただ、そこで国がと言えば、最終的に、国がきちっと管理して責任持ちますよと、その一言で中間とか最終とかいらないし、職業として使うの当たり前だし。だからですね、やはりいろんなものを含んで、もう何があろうと全然関係ない、理由はないです。だから、やはり我々の世代、もう原発世代です。そこでやはり除染とかそういうものの、まず改善、改良その部分はきちっと100%やる。ただ後は国と町、県そこです、そこを本質的に5年刻みで線量がどのくらい下がったか、やはりその部分の統計を取ってやるべきなのが普通なんです、それを100%除染すればその除染したもので処分場がいっぱい、足りない状況に多分なると思います。それで中間と言ってますけど、あと25年しかありません。だから私たちは反対、賛成の二者選択ってというのはその答えしかありません。ただ反対賛成じゃなくて、やはりみんな議論するのはやっぱ次世代に先送りしないようにきちっと思うこと、5年刻み、せめて10年後に、そういうのをしっかりしていかないとやはり代替わりになると、反対するのは簡単です。関係ない話ですから。そういうことできちっと我々の世代でなんとかそういう先行きが見えるような、除染にしても処分場にしてもやっぱそういう方向でやっぱみんなの前で議論、意見をもらってそれに対応できる、できないそういうのを言わしてもらえたらなと思います。以上です。申し訳ありません。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

ご指摘ありがとうございます。まず11年経ってしまったこと、本当に申し訳ございません。また、今ご指摘いただきましたところも、まさに午前中でも実はご指摘いただいたんですけれども、双葉町に苦渋の選択で受け入れて頂いた中間貯蔵施設の問題をどうするかというところかと思えます。2045年に県外に搬出することが決まっていますけれども、まだ具体的なところまだ見えていないといった御指摘もいただいております。ただいまご指摘いただいたように、何よりもご帰還される住民の皆様、100%戻っていただけるように我々もとことんやらせて対応させていただくようにいたしますとともに、まさに言われた我々の世代というかこの時に何をどう考えて将来を考えていくか、というのは重要なご指摘だと思います。町、町長、双葉町の皆様と住民の皆様、行政区長の皆様ともよく意見、議論させていただきながらどうやるかというのを考えていきたいと思えます。

■ (町民：鴻草行政区 男性)

よろしくお願いします。ちょっと感情論になってしまうかもしれないんですけども、双葉町は復興拠点を重点的にやっていこうという気前、駅の西側にいろいろ再開発をされる、その他我々も目にします。それから伝承館の規模も素晴らしい箱の施設が建てられました。ところが駅から1分、車で走って、我々鴻草エリア、さあ11年経ってどうなってるでしょうか。非常に、私は先日も鴻草に行きましたけども、町内の復興格差というのが激しすぎるって私は感じます。いろんな国の考え方、町の考え方、ご事情がおありだとは思いますが

も、いやぁこれほどまでに格差があらうものかと、個人的には、感情的にそういうふうに思っております。それがひとつです。それから今も国の方から、再三ご意向、ご意向という言葉何度も何度も出てきておりますけども、我々の意向ももちろん大事ですけども、国からの力強い方針、他市町村はこうなりました、浪江がこうなった、大熊こうなった、広野、楡葉がこうなった、じゃあ残された双葉や大熊こういう風にしていきたいというか何か方針というものがあってもいいんじゃないかなと感情的には、思っております。あともう一つ、震災直後、2011年6月当時は民主党政権でしたけれども、新聞の報道で当時の震災で、こう壊されてしまった、倒壊してしまった家屋に関しては環境省が責任を持って取り壊しということをするという風なことを明確にされました。で、私はそれを見て、あっ国がやってくれるんだなと一安心をして、はい、それから11年が今経とうとしています。その方針が今も活きているのか、それとも、もう11年前の民主党政権時代の話だからちょっとそれはもう反故になってしまったのかっていうのを、これは個別の話なんですけども、そういったところもお話したいなと思います。以上です。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

ありがとうございます。まず、再三再四、ご意向、ご意向と言ってしまうと、大変申し訳ありませんでした。これまでもあらゆるご指摘、正直お怒りの声をいただいています。なぜ意向なんか確認するのだというふうなことを言われております。誠にお詫びするしかないのですけれども、とにかく帰還されたいという住民の方がいらっしゃる中で、その声に早く応えたいというの、が本当の本心であります。そのうえで大変感情を逆撫でするところもあるかと思っておりますけども、もしよろしければお聞かせいただいて、そこからまず着手をさせていただきたいというふうに思っています。ただ、双葉町では今日で5か所目でありまして、浪江町でもそうですし、いろいろな所で本日のような説明をさせていただくなかで、大変お怒りの言葉をいただいております。これは本当にごもつともだと思っております。そのうえで私はもちろん真面目に受けつつ、一步でも前に進みたいというふうに思っています。それは意向確認をしてという優先という意味であります。特に双葉、大熊に関しての国から強い方針が示せないのか、というご指摘であったと思います。午前中も実は同じようなご指摘をいただいているというふうに理解しております。特に双葉町に関しては苦渋の決断をさせていただいたところのなかで、双葉町のご決断があつてこそ、福島県内の復興が進んでおりますので、午前中申し上げましたけども双葉町の復興に国も最後までしっかり全力をあげて取り組むつもりであります。そのうえで双葉町全体の方針というところというのは、ちょうど町の方でも、どういう街づくりをしていくのか、というようなプランをお作りになっているというふうに承知しております。それに関しましても、我々としてやれること全てやっていく、産業の誘致を含めて必要なことは全部させていただく、そういう形のご助力をもちろんしたいと思っております。これもお叱りを承知で申し上げますと、国の方でお示しの案を作つてはいけないと私は思っています。まずはなによりも住民の方がどういう町の復興をしていく

のかというのをいただいて、それでこれが必要だ、あれが必要だということについて、我々が全力でそこを実現するように走っていくというふうな形にできればと思います。あと 2011 年の前政権の時のお話のところはどういう案だったか、というのが私も正確に分からないところもありますけども、先ほどいただいた全て解体するというのが第一だというのは、御指摘をいただいております。全部、全て解体するというふうには言えないところで、ただ、今回の方針はですね、ご帰還される住民の方のご自宅の周辺、ご自宅だけでなく周りも除染をしまいいりますし、道路も除染をしていきます。道路の周りもこれまで 20 メートルを除染・解体もしておりました。また午前と同じお話、繰り返すすみませんけども、私は出来れば、立ち入り規制緩和をぜひやらせていただければと思っております。線量が低い所を念頭に、立ち入り規制緩和をするにあたっては防犯の観点からも、防火の観点からも家屋の解体ということが当然必要になってくるだろうと考えています。住民の方においても、今許可を得て入っておられるということに対するご不満も相当お持ちだと私も思います。そういうのも、まずはご意向を踏まえながらしっかり対応させて頂きたいと思えます。まずは住民の方のご意見がないとなかなか立ち入り規制緩和は出来ないものですから、そういう声をいただきながら今の話をぜひ進めていければと思います。とにかく、私達も除染も解体も進めたいと思っております、そのきっかけをいろいろな形でいただければというふうに思っております。

(原子力災害現地対策本部 黒田総括・広報班長)

一歩一歩しっかりと進めていきますので、ぜひよろしく願います。

■ (町民：石熊行政区 男性)

ここ十何年もたっても何も実行されていない、という現実について。この前ですね、内閣から依頼が来ていろんな話し合いに出させてもらいました。今日は、その一部でもあれば回答がでるのかな、とそういう思いで出席したわけなんですけど、ここにこの一般の方と行政区の人たちも、これいい言葉だけ抜粋されてるんですよ。これ本当厳しい結果出てます。これには。それを内閣府が書けないでしょう。ここに書いてあるのはいい言葉ばかりですよ。こういうことはないにしろ。いろいろ。例えば例で言いますと、もう動物関係が家に入って、もうめっちゃめっちゃだと。この一部分だけ壊してもらえないかと、内閣府の方々が来てた時にもこういう意見がでたと思うんですよ。ほかの行政区からも。こういうことが聞けるのかなと楽しみにして、ここに来させてもらいました。それとですね、ここにある難しいこと。帰還困難区域へ帰りたい人、帰りたい人ね。例えば、今日午後から来てる人は帰れない人と思うから、帰りたいのであればどういうふうなアンケートを出せばいいの。これも何ページかに出ていましたよね。これは、帰還困難区域の解除になった町、解除になる前に、そういう町の人、方々にも解除になるかもしれないというアンケートを取ったんですか。我々帰るんだったらこういうアンケートにお答えください。こういうふうに出てますよね。それでそ

のアンケートをもし町で取ったんでしたら何人の方が回答してる。現在は、例えば100%なのか10%なのか分かりませんが、もし今も悩んでいる帰還困難区域の人達にアンケート、本当に戻るんですか、戻らないんですか、お答えください、アンケート用紙、こんなことやってる場合じゃないですよ。うちの行政区から内閣府の方々にもう、お年のおばあちゃんがもう家に帰って死にたいんだとそういう意見、内閣府からもいらっしゃってますから出てくると思うんですよ。家壊してやり直すにもインフラ整備する、何する、そんな話し合い、できますか。出来ないと思うんですよ。100%。だからあの、準備区域じゃないんです、実行がされないんです。だから例えばここに各行政区の検証データ、何言ってんだとこれ、いいところばかり抜粋してるんじゃないか。多分そういう意見出るとは思いますけども、私の考えはこういうことです。以上です。

(内閣府原子力被災者生活支援チーム 佐藤企画官)

ご指摘ありがとうございます。5ページ目にですねこれまで頂戴した意見を書かせていただきました。もっと厳しい意見が沢山あったのではないかとご指摘も頂戴いたしました。表現振りはともかく、お叱りのご意見は、双葉町の行政区の皆様方と意見交換させていただいたときもそうですし、他の自治体で住民の皆様にご説明申し上げたときもそうですが、言葉遣いはともかくといたしまして、厳しいお叱りのご意見、お叱りもお怒りも含めてですね、頂戴をしまりました。今、仰っていただいた解体をやるべきじゃないか、こういったご指摘も頂戴をいたしました。このタイミングで方針が告示して出来ていないことを、大変お詫び申し上げたいと思いますが、しっかり考えていきたいと思っております。またお婆様のお話、帰りたいのだからまず早く実行してほしいとのご指摘もいただきました。ありがとうございます。我々そういったお声に何よりも早くお答えをしたいというのが、今回の方針でございます。アンケートなんかやってないでというご指摘もいただきましたが、アンケートすること自体失礼かもしれませんが、ご意向をいただければですね、我々そこを含めてしっかり除染をさせていただきながら、早くお戻りいただけるような環境を作りたい、そのように考えてございます。ご指摘のように遅れることなく、しっかりスピード感もってやらせていただきたいと思っております。ご要望を頂戴し我々はしっかり実行し、前に進めたいというふうに考えております。厳しいご指摘含めて大変ありがとうございます。肝に銘じたいと思っております。

(原子力災害現地対策本部 黒田総括・広報班長)

ご意見については、しっかりとまとめて、東京も含めて、皆様のご意向・ご意見を踏まえながら進んで参りたいと思っておりますので、また引き続きよろしく願いいたします。

■ (町民：山田行政区 男性)

私は専門家についてお伺いしたいのですが、放射線による汚染というのは時間が解

決してくれるわけですね。例えば私どものほうにモニタリングポストがあるんですけども、放射性物質の汚染が発生した時には  $400\mu\text{Sv/h}$  くらいの値があったんです。ところが現在のモニタリングポストの値を見ると  $3\mu\text{Sv/h}$  を切るくらいまでのところまできていますね。10年の間で100分の1くらいまで下がってるんですよ。そういうふうに考えたときに、ここで知らせてた2020年ですか？の終わりまでには避難指示を解除しますよ、みたいな話をしたときに、おそらくそれまでにはその高いところも、十分年間の被ばく線量が  $20\text{mSv}$  を切るくらい下がってくるだろう、とそういう予想のもとでこういう方針を出されたかと思うんです。だったらその時に除染の何の意味があるんですか。除染のやる意味というのが私には分からないです。そのところお伺いしたいと思うんですけども。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

仰るとおり、放射線量は自然に下がっていく事実がございます。100 mSv より下であれば明らかな健康影響は確認できないという中で、20 mSv/y 以下という要件で避難指示解除をしているものであります。除染を何のためにやるのかという意義の部分かと思えます。お叱りを受けるのも承知で申し上げますと、国際的・科学的な知見により、線量が 20 mSv/y 以下まで下がっていれば健康影響は確認できず、住民の皆様からの科学的な面での安全性は確保されているというような我々思っております。一方で除染をしないと安心して帰れないというお声、、、

(町民：山田行政区 男性)

除染をしたからといって完全に戻せるわけじゃないですよ。除染に何の意味が。何の安全を確保するつもりなんですか。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

線量という意味では 20 mSv/y 以下という形で国際的・科学的な知見により、健康影響は確認できないという点で安全性は確保されていると我々思っております。ただそのうえで他の所でもそうなんですけども除染をして更に線量を下げる、、

(町民：山田行政区 男性)

あのですね、2020年代の終わりまでに年間 20 mSv に達してない所もありますよっていう話なんです。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

仰るとおりです。現時点でも避難指示が継続している中でも、20 mSv/y を下回る場所は現にごございます。ただそこを避難指示解除ができていないのが現実であります。避難指示解除するには住民の皆様、、、

(町民：山田行政区 男性)

ただですね、なんで…、その放射性物質の汚染についてですね、その実態その詳細について、我々には何の説明もしてないですよ。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

実態といいますとあの、、、

(町民：山田行政区 男性)

どういうふうな放射性物質でどれくらいの範囲で汚染してるんですかっていう説明です。そういうものが一切何もなかったです。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

放射線量につきましては、モニタリングポストでの数値を含めて、、、

(町民：山田行政区 男性)

汚染のですね、なんだか知りませんが空間線量率だけで示してます。空間線量率っていうのは何%ですか。それを主に測定して内部被ばく、これの指標にしましょうという事を出してたはずですよ。放射線はガンマ (Y) 線以外にアルファ ( $\alpha$ ) 線もベータ ( $\beta$ ) 線もあるんですよ。今回の除染の中にアルファ ( $\alpha$ ) 線の出しやすさとベータ ( $\beta$ ) 線の出しやすさ、全く異なるでしょ、その評価というのはどうなってるんですか。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

はい、申し訳ございません。空間線量率については全て数値が出てるところであります。そのうえで…

(町民：山田行政区 男性)

だったらそれをはっきり数値だして説明してください。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

はい、今回の午前中にさせていただいた復興拠点の説明の中では、区域内の数値を出しています。そのうえで、特定復興再生拠点以外の所についても、これは原子力規制庁になりますけれども、数値は全部出させていただいております。そのうえで仰っているのは説明が足りないということかと思えます。

(町民：山田行政区 男性)

私山田から来てると話しました。それで今の山田にあるモニタリングポストの値っていうのは3  $\mu\text{Sv/y}$  を超えるか超えないくらいに下がってますよという話をしました。ただしこの3  $\mu\text{Sv/y}$  の値は他の地区に比べて極めて高いわけですよ。じゃあこの山田地区の汚染っていうのはどういうふうにして発生したんですか。どれぐらいの範囲の汚染が、汚染されるのかっていう話なんです。恐らくこれ、山田を汚染しているのはですね、原子力発電所から放出された放射性物質が海からの風に乗って北西方向に流れていったと、その通り道に山田があったんだろうというふうに思うんです。しかもこの通り道がですね、地表に割と近いところを通っていったものだから、地表をなでるような形で汚染していったという話なんです。この汚染というのはもう事故があって1カ月もしないうちにほぼ確定してしまった話ですよはっきり言って。恐らく国にこういうふうな事故を起こして申し訳なかったという気持ちがあるんだったら、そういうところに住んでいる人たちに対してあなたたちの所に住んでた、あなたたちの所っていうのはですね、こういう放射性物質で汚染されてるんですよっていうことを改めて説明して、説明されてもおかしくないはずだということですよ。それが10年経っても未だに何の説明もないっていうのはどういうことなんですか。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

まさに説明をされたことがないというふうにおっしゃったことに関しては、お詫びを申し上げるしかありません。説明が足りなかったことを素直にお詫び申し上げます。大変申し訳ございません。

(町民：山田行政区 男性)

実態がどうなんですかっていう話なんです。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

何よりも重要なのは、仰るとおり実態がどうなっているかというところのご説明をしっかりできるかどうかというところにあります。いろいろな形で、先ほど申しあげましたHPでも出していますけれども、それでは説明になってないということなのだと思います。ご指摘のところの部分、我々もしっかりまた説明をさせていただくようにしたいと思います。

(町民：山田行政区 男性)

それとね、事故後ですね、汚染物質に対しては、事故があった土地の掘り出した土を、しっかり現地に入って土壌サンプリングもしてるんですよ。それで、汚染の実態調査をすべてやっているわけなんです。その時に汚染土壌のサンプリングした所っていうのを、人家と(…)やってるんですよ。恐らく今回の汚染っていうのは、地表を何十年かけて、汚染してたということであれば、恐らく山林の除染っていうのは、働かなくなったんだと思います。

国が実態調査っていうことで、その山林の汚染が長くなると予想されるようなことは、一切サンプリングも何もやってないですよ。それで、だいたい汚染の内容は分かりましたみたいな話をしているんですよ。それだったら自分の所でって私だったら思いますよ。それに基づいて、除染だなんだっていうのが計画されたかですね。その基データとなったのが、あの、国がやった実態調査なんです。で、恐らく国がやってる実態調査ってのが、山田との整合性なんてほとんど分からないですよ。そういうところをはっきり出してもらわないと困るんですよ。それがないと、帰還したい、帰還するんだというのは判断すらつかないですよ、我々は。まず最初に意向っていうのは、山田に限ってという話にはなってしまうんですけども、ここは汚染の詳細の情報を出していただきたいと思います。よろしくお願いします。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

まさに拠点外、先ほどの方の質問もつながりますが、帰還するかという中で、安心安全で安心して帰れるかというところの、まさに基本情報としての放射線量はいったいどうなっているのか、そのデータを取らせていただくというのはごもっともだと思います。我々ももっと線量について、山田地区もちろん、他の地区もそうですけども、しっかりとお示しをさせていただいて、そのうえで実は特定復興再生拠点にも同じでありますけども、今現時点での線量のところ、除染させていただいた後の線量、加えて除染した、、、

(町民：山田行政区 男性)

現時点の値じゃない、現時点での値なんて、なんでそこ、改めて高い所の実態調査なんてやる気なんて更々ないでしょう。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

いろいろな所の放射線量調査は、住民の皆様のご帰還、安全安心して帰っていただくためにも必要だと思っています、、、

(町民：山田行政区 男性)

やってないじゃないですか。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

いずれにせよ、情報をどう出していくのか、一番ご関心の放射線量について、、、

(町民：山田行政区 男性)

放射性物質に関してはですね、今一番困難になっています、セシウム 137 です。でもそれっていうのであれば、半減期が、30年ぐらいで短いとか、まったく短い、放射線を出すわけですよ。しかしながら、今回放出された放射性物質の中には、核燃料の部分も入ってる

話なんでしょう。プルトニウム、ウラン、特にウランなんて原子力では圧倒的に多いわけでしょう。そういうやつがどうなってるんですかと思えますよ。特に山田に汚染されてる、どうしたことだって心配になりますよ。特に津島ですか、あそこは国が調査した時にプルトニウムも検出されますってようなみたいな話をしてたから。津島の汚染っていうのは、山田の状態が津島の方にいったわけですよ。だから津島が汚染する前に山田を通過してるんですよ。津島もプルトニウムが検出されたのに、山田で検出されないなんておかしいですよ。山田のほうが原子力発電所に近いじゃないですか。そういうところはどうなんですか。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

まさに、ずっと山田地区におられた中で、多大なるご不安をお持ちになっていること、大変申し訳ございません。いずれにせよ、今お話しいただいた実際どうなっているのかと言う所の状況情報実態含めて、それを皆様方にお知らせしていくように我々もしっかりやるようにいたします。

(町民：山田行政区 男性)

ちゃんと決めて下さい。やるのかやらないのか。やらないなら、やらないでいいですよ。やらないならはっきりしてください。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

まずは、一番ご関心の放射線量が今、山田地区ってどうなっているのかというところかと思えます。そこをまずは、今現地がどうなっているのかっていう所をお知らせしたいと思えます。

(町民：山田行政区 男性)

空間線量率、そんな値なんてどうでもいいです。そんなのは分かりきってますから。問題はこういった放射性物質がどれだけあるんですか。その分布はどうなってますかっていうのことをね、そこだけはっきりして下さい。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

空間線量率について、改めて正確にしっかりとお伝えしたいと思えますけども、セシウムを含めていろんな全て総和した形の空間線量率という形になっているはずですよ。ただ改めてしっかり説明するようにいたします。

(町民：山田行政区 男性)

改めてって、空間線量率っていうのはガンマ線なんです。今ガンマ線で、出しているのは、セシウム 137 です。だから空間線量率っていうのは、セシウム 137 の値でしょうがって。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

いずれにせよ、しっかりご説明した方が良いと思います。一点だけ申し上げますが、アルファ ( $\alpha$ ) 線は紙1枚で止まります。紙一枚の所でアルファ ( $\alpha$ ) 線は遮断されているとそういう性格なものです。放射性物質、非常に分かりにくいところはございますので、

(町民：山田行政区 男性)

できない、言えないと思います。しかも、そういうデータがあるんだか、ないんだか分からないでしょ。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

いずれにしても、今我々が持っているものをどういう形でしっかりまず説明させていただくことができるかと思っております、

(町民：山田行政区 男性)

言っていないでしょ。載っていないじゃない。ちゃんと説明してくださいよ。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

いずれにせよ正確にご説明させていただく方が一番よろしいかと思えます。何より我々がどういったデータを説明できるか、

(町民：山田行政区 男性)

だいたい…、構わないですよ。

(原子力災害現地対策本部 辻本副本部長)

しっかり説明させていただきます。

## 9 閉会